

ニュースレター Vol.11

2025 年 6 月発行

公益財団法人みらいファンド沖縄・琉球宇温基金

ご寄付くださいました皆さまへ

平素は、公益財団法人みらいファンド沖縄・琉球宇温基金に温かなご寄付をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

今年は大阪・関西万博が開催ということで例年以上に未来社会について見聞し考える機会が増しているのではないかと存じます。皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。私どもは、宇温(たかはる)が遺した「人からもらった幸せを その人だけじゃなく 他の人にも幸せをつなぐ」という言葉を礎に 2019 年に基金を設立して以来、たくさんの方からご賛同いただき、ご寄付くださいましたことで、助成活動を持続することができております。

今回も基金の活動をご報告させてもらえますことは、これもひとえに皆さまからの温かなお心の賜として、深く感謝申し上げます。

助成活動と助成先からのメッセージ

皆さまからいただきましたご寄付につきまして、宇温が沖縄での学生時代にかかわりをもっていました特定非営利活動法人 アメラジアンスクール・イン・オキナワさん、並びに、一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄 子どもの居場所学生ボランティアセンターさんに助成し、活用いただいています。

アメラジアンスクール・イン・オキナワさんでは、英語と日本語の両方で授業をされる中で、教育環境の整備や教育活動の充実につながる物品の購入などに助成金を活用され、子どもたちの教育に役立ててくださっています。スクールさんからの報告を別紙 1 に紹介いたします。

子どもの居場所学生ボランティアセンターさんでは、沖縄県内の離島への学生ボランティアの派遣において、従来以上に派遣地区を拡充されたことにも助成金を活用くださいました。派遣された学生の方々からの多くの学びや気づきを別紙 2 に掲載いたしました。

子どもの居場所学生ボランティアセンターさんから、
助成に関して、感謝状をいただきました。

昨年 11 月には、基金事務局が助成先を訪問し、
助成活動や今後の取り組みなどについて、幅広く
意見交換させていただきました。



アメラジアンスクール・イン・オキナワさん訪問



子どもの居場所学生ボランティアセンターさん訪問

今後に向けて

世界や社会の混乱や分断、AIをはじめとするテクノロジーの急速な進展など、目まぐるしく変わる時代の中で、これからを担う子どもたちや若い世代の方々、そして助成先の皆さまが、未来を見据え高い志をもって活動されています。基金としては、宇温が遺した「人からもらった幸せをその人だけでなく 他の人にも幸せをつなぐ」の思いを噛みしめ、これからも地道な活動を続けてまいりたいと存じます。

今後におきましても皆さまから公益財団法人みらいファンド沖縄・琉球宇温基金への温かなご支援とご協力を賜りますこと、何卒よろしくお願い申し上げます。

<Facebook ページ>

琉球宇温基金では、Facebook のページを立ち上げております。

下記 URL、または、Facebook の「琉球宇温基金」を検索してご覧いただくことができます。

<https://www.facebook.com/Ryukyu.Takaharu.Foundation/>

以 上

（別紙 1）アメラジアンスクール・イン・オキナワさんからいただきましたレポート

日頃よりアメラジアンスクール・イン・オキナワを支えていただき心から感謝いたします。

貴基金による支援は、本校の教育環境の整備や教育活動の充実に欠かせない重要な助成金となっています。昨年度は、授業改善のためのプロジェクター、及び、その周辺機器としてポータブルスピーカー、HDMIコード、変換プラグ等の備品を購入しました。また、学習環境改善のための、扇機とサーキュレーターも購入しました。誠にありがとうございました。

去年 11 月に開催した本校の感謝祭には、宇温さんのお父様が本校を訪問していただくという大変うれしいことがありました。生徒・職員が日頃の感謝の気持ちを直接伝えることができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。心から感謝しています。

さて、本校には英語と日本語の言語能力の異なる子どもたちが混在しています。その子どもたちにとって、プロジェクターで映し出された画像や動画あるいは文字や資料は、言語学習の大きな助けになっています。また、幼稚園児や低学年のリズムを交えた言語学習にもプロジェクターは活用されています。

今回の助成金で 4 月に購入したプロジェクターは分かる授業づくりに 1 年間フルに活用され、子どもたちの学力向上に大きく役立ちました。また、扇風機とサーキュレーターも沖縄の暑い時期を快適に過ごすために大活躍しました。お陰様で子どもたちは快適な学習環境の中で授業に集中することができました。あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に、長年の貴財団による本校への支援は、学習環境や学習教材教具の改善・充実を確実に推進する貴重な財源となっています。今後とも本校教育活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

アメラジアンスクール・イン・オキナワ 校長 比嘉政宏



（別紙 2）子どもの居場所学生ボランティアセンターさんからいただきましたレポート

「こどもの居場所学生ボランティアコーディネート事業」は、内閣府が主導することも貧困緊急対策事業の一環で沖縄県から委託を受け、大学コンソーシアム沖縄に加盟している 11 の高等教育機関の現役学生を、県内の子どもの居場所へボランティアとして派遣しています。そのような派遣は、他県よりも深刻と指摘されている沖縄の子どもの貧困問題という地域課題解決を目的に実施しています。学生ボランティアとの関わりを通して、居場所へ通う子どもたちの精神的安定や学習意欲の向上がもたらされ、将来への夢を具体的に描くことができるようになるなどの効果の報告がなされております。

令和 7 年度に入り、当事業は 10 年目を迎えました。昨年度 3 月末時点では、309 名の学生が登録し、そのうち 255 名が活動しました。琉球宇温基金を活用させていただいている離島派遣事業では、昨年度春季（2 月中旬～3 月中旬実施）に 22 名の学生を 7 島 13 ヶ所の居場所へ派遣することができました。今回の派遣でも、申込のあったすべての学生を離島の居場所とマッチングし、また受け入れの希望をいただいたすべての居場所へ、偏りなく派遣をすることができました。これもひとえに琉球宇温基金様をはじめ、ご支援を下さっている企業・団体様・個人様の力添えによります。ここに、改めて深甚なる謝意を表します。

令和 6 年度春季の派遣から、従来の派遣先であった石垣島、宮古島、伊良部島、伊平屋島、南大東村の 5 島に加えて、粟国島、伊是名島へも新規派遣を行い、地区を拡充して、離島の子どもたちへの支援の更なる充実につなげています。以下、令和 6 年度春季（R7.2 月中旬～3 月中旬に実施の活動）から、学生の活動報告を抜粋してご紹介します。

◆子どもホッ！とステーション・ウルズ子どもホッ！とステーション（石垣島）/沖縄国際大学 4 年次 新井 彩奈

今回の派遣では新しい経験ができました。それは、子どもと一対一での支援を行えたことです。今までは大人数の子どもを相手にした支援を行ってききましたが、1 人の子どもに対しての支援を行うことで、一人一人と向き合う大切さを改めて理解できました。子どもの方から、一緒に紙飛行機をやろうと声をかけてくれて、紙飛行機をだれが長く飛ばせるか勝負をしたり、タイピングの勝負をしたりしました。私も、タイピングが早い方だと思っていたのですが、完全に負けてしまい、私自身もっと頑張ろうという刺激をもらいました。また、大学生がいるから、大学生と一緒にになにかするというわけではなく、漫画を読んで 1 人の時間を持つなど、自分の時間をしっかり自分で確保できる素敵な居場所だと感じました。



◆ウルズ子どもホッ！とステーション・子どもホッ！とステーション・子どもホッ！とステーション未来塾（石垣島）

/琉球大学 2 年次 宮井 菜緒

高校受験を控えた子ども達に対してのサポートを行いました。中学生相手のボランティア活動は初めてで、勉強面のサポートなど難しいことはありましたが、子どもが困っていたら声をかけてあげるように意識して活動することができたと思います。



居場所の子ども達は、私や他のスタッフに対して「今日学校で好きな給食が出て嬉しかった！」や「友達と外で遊ぶの楽しかった！」などといった学校での出来事を話してくれて、居場所での生活が学校と家庭をつなぎ、支える重要な役割を果たしていると感じました。また、居場所の子ども達は、貧困による課題を抱える子ども達が多かったです。見た目ではそのような印象を受けず、目に見えない貧困が多く存在していることにも改めて気づかされました。居場所に来ることで見守られているということを子ども達が実感できるように、スタッフとして密なコミュニケーションを心がけることで、居場所が子ども達にとって安心感のある場になる意識を持つことが大切だと感じました。

◆子どもホッ！とステーション・子どもホッ！とステーション未来塾（石垣島）/沖縄県立芸術大学 4 年次 柱 果那

この時期の子の特徴なのか言葉遣いの荒さが目立ったが、同じボランティア学生が、マイナスな表現に受け止められがちな言葉をプラスに変えていた姿を見て学ばせて頂きたかった。春初めの寒さと共に訪れた、このボランティア活動は充実した物になった。自分の興味があったことを少し知ることができたのもそうだが、何より子どもと遊ぶのは奇想天外で楽しい。だが、小学生との遊びは十分に行えたが、中学生の対応の仕方が難しいように思えた。もう少し分かりやすく相手に声をかけてあげることが大事なのかなと考えた。最後に子どもたちが「またね」と声をかけてくれた。それぞれ熱量は違うものの、その小さな言葉は私に春の日差しのような温もりをくれた。徐々に春の暖かさがやってくるだろう彼、彼女らに爽やかな喜びがあることを願う。



◆学習支援教室まなびやあ（宮古島）/名桜大学 2 年次 福知 未悠

5 日間の活動は、毎日が発見と学びの連続でした。その中でも特に学びとなった点は、支援におけるコミュニケーションの在り方についてです。子どもたちと関係を構築するには、私が考えていた以上に、同じ空間で同じ時間を過ごすことが重要であることを学びました。これまでの私は、会話を交わす回数が多いほど、比例して子どもたちとの心理的距離も近付くとばかり考えていました。なるべく多く会話をすることが、どのような子どもに対しても最も理想的な支援の在り方であり、ある意味ゴールでもあると捉えていたからです。でもそれは「支援した」という実感をわかりやすい形で味わいたかった私の、独りよがりなコミュニケーションでした。



初日に教室長から、「親戚のように親しみを持って子どもたちと接してもらえたら」という言葉をいただきました。これからは力まずにリラックスして、今より更に子どもたちと自然体に関わるよう心掛けていきたいです。大学卒業後はこちらで働かせていただきたいと感じるほどに、本当に温かくて居心地のよい居場所でした。改めて自身の将来を考えるきっかけともなり、何より 5 日間本当に楽しかったです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

◆瀬水学園にじいろ塾・デイゴ学習支援教室（宮古島）/沖縄県立看護大学 2 年次 小波津 穂乃花

最終日に担当した受験生は、私が思っていた高校受験前日の様子ではなく、少し戸惑ったが、今日の試験の内容について話す様子や表情から、各々が彼らなりに真剣に受験に向き合っていると気づくことができ、面接の練習などこちらも真剣にその子に向き合おうという気持ちになった。数学の問題を教えている時は、どうしても自分の解き方や考え方の癖が出てしまい、それを相手に押し付ける形になってしまうことがあり、自分の「教える」という行為の未熟さを痛感する場面があった。そのため生徒に教えるという立場の人は、ただその問題を解けるというだけではなく、考え方で深く理解して相手に合った解き方で伝えられるようにしないとけないと考える。初日の終わりに先生が、「〇〇（居場所に来ている男子中学生）は今日、小波津さんが来ていたからいつもより勉強する時間が長くて、熱心に取り組んでいたよ。」と言っており、普段いる人とは違う大学生という存在が入ることで、勉強意欲を高める刺激になったのだと分かり、嬉しかった。



◆サシバ教室（宮古島）/沖縄キリスト教学院大学 3 年次 金城 さくら

この活動を通して、さまざまな事情を抱える子どもたちと触れ合い、彼らの置かれている環境や日常について考えさせられる貴重な経験となりました。家庭環境は子ども一人ひとり異なり、その影響は生活のあらゆる面に及びます。今回出会った子どもたちの中には、ヤングケアラーとして家族の世話をしている子や、不登校の経験を持つ子など、普段の生活ではなかなか接する機会のない子どもたちもいました。小学生と関わる中で、彼らの明るさや純粋な好奇心に元気をもらいました。また、子どもたちとの関わりを通じて、学びの形は一つではないと改めて感じました。学校に通うことが当たり前とされる社会の中で、不登校という選択をした子どもたちも、自分なりの学びのスタイルを模索しながら成長していました。その姿を見て、教育のあり方について考えさせられました。子どもたちと関わることで自分自身の価値観や考え方も広がったように思います。

◆さんご学習支援教室（伊良部島）/琉球大学 1 年次 上霧 大智

活動参加前、私は 2 つの目標を設定していた。1 つは「学習を相手の視点に立って分かりやすく教える」、2 つ目は「子どもたちとの触れ合いで私自身が一番楽しむ」という 2 点だ。活動後、これらの目標を振り返ると達成できた点と課題となる点が見えた。課題としては、特に中学生を対応する際、十分に自分の理解が追いついていないことが多く、それぞれの子どもの寄り添った分かりやす



い説明が出来なかった点だ。自分自身がよく理解している分野に関しては、自分の教え方に達成感を感じるが多かった。自分の理解がそのまま子どもたちの成長に繋がる点にやりがいを感じる反面、自分の理解が薄い分野をうまく教えることが出来なかった時にはもどかしく感じた。達成できた点としては、子どもたちとの触れ合いを通して自分がとても楽しめた点だ。伊良部島の子どもたちは、明るく元気で、初めて会う私にも積極的に話をしてくれて、とても親しみ深かった。そのため、毎日の活動はとても楽しみで、あっという間の活動だった。

◆伊是名村立保育所・放課後ふれあいキッズ（伊是名島）/琉球大学 1 年次 濱里 愛

活動をしていて、伊是名島などの高校がない離島では居場所に学生など若い世代の先生がいないことに気づいた。実際に私が活動をした小学校の居場所の職員の方は 1 人で、学生の先生が来るのは初めてと話していた。また、保育所で学生は、実習生など派遣の形で来ている人が多かった。このようなことから、離島の居場所には離島の外にいる学生との交流の機会が少ないことに気づいた。離島などの居場所は学生のお兄さんお姉さんと触れ合うことが少ないため、そのような機会を増やすことで居場所活動の



推進や、子どもたちの成長にもつながるのではないかと感じた。保育所での体験で得た気づきでは、活動の最中、「服を着させて」「水筒をとって」とお願いする子がいて、それを引き受けていると、頼まれごとが多くなって少し困ってしまっていた。そのようなときに保育所の先生が「自分でできるでしょ」と注意をした。保育所での初めての活動だったため、このような些細な事でも怒るのかと驚いたが、注意を受けた子は一時不機嫌になったもののその後は私に頼んでいたことを自分で行うようになっていた。私は保育所で活動するにあたって「面倒を見る」ことが大事だと考えていたが、この経験から自立を促すことが 1 番子どもたちのためになると気づいた。よってこれからは「子どもたちの自立を促す」ことを軸に活動を行っていきたいと思う。

◆てるしのジュニアクラブ（伊平屋島）/名桜大学 2 年次 桑畑 亜弥

子どもたちはみんな運動が大好きで、鬼ごっこやバレー、サッカーなどをして遊んだ。居場所の方に「皆なぜこれほど体力抜群でスポーツが上手なのか」と聞くと、子どもたちの人数が限られているため皆が何かしらのスポーツをしないとチームが成り立たないからだと話してくれた。また子どもたちからは、近隣の伊平屋小学校には部活動がバレーとサッカーしかなく、最近部活動から柔道が無くなったことを教えてもらった。ある子に「B ちゃんは部活何やりたいの?」と聞くと、「本当は柔道がやりたい」と話してくれた。柔道が無くなった理由はわからないが、もし子どもたちの人数が関係しているのであればやりたいことが制限されている現状に考えさせられた。居場所の子どもたちは幼稚園生から小学六年生までと年齢の差はあるが、そこに上下関係は全くないように感じた。みんな兄弟のように仲が良く「幼稚園生だからまだ早い」などと言わず、幼稚園生や小学校低学年の子がまだわからない遊びがあると、年下の兄弟に教えるように親身になって一緒に遊んでいた。



◆南大東村立学習支援センター（南大東島）/沖縄大学 3 年次 中塚 静樹

活動を通して子どもと関わる中で、何事にも一生懸命に取り組む直向きな姿が印象的でした。学習にしろ、遊びにしろ、目の前のことに誠実に取り組む姿勢は南大東の子どもたちの素敵な特徴だと思います。加えて、子どもたち同士の協調性も印象に残っています。学習でわからない箇所を教えあったり、怪我をしったり困ったりしている子どもの元に歩み寄って「大丈夫?」と声をかけたり、遊



びでルールを決める時に異なる意見があったとしても対話して譲歩し合ったりと、随所で協調性を感じました。コミュニティの中で、誰かを排除したり放っておいたりするのではなく共に支え合う姿は、より人と人が密につながり合う離島であるからこそ見られた光景だと思います。4 日間の活動を通して、小学 1 年生から中学 3 年生まで幅広い年齢の子どもたちと関わることができました。学習や遊びをとおして関係を深め、多くの子どもたちが駆け寄ってきて話しかけてくれました。最終日の子どもたちとの別れは惜しいものでしたが、この 4 日間、南大東島という素敵な場所でも意義な時間を過ごすことができました。

◆アニー塾（粟国島）/名桜大学 2 年次 江原 匠

高校入試の面接練習では、子ども達のことを知るきっかけとなりました。将来の夢について聞いたとき教員、薬剤師、料理人とそれぞれの夢がありました。しっかりと夢を持っている子が多いと感じました。その背景には、職業体験で病院に行ったことや、親が漁師で料理を教えてもらった経験があり、体験する中で将来を考え目指していると知りました。調理学校へ行って「島で自分の料理屋を出したい」と話すときに目がいきいきしていて、料理が好きだという強い熱量を感じました。得意教科と不得意教科を聞くと、留学経験のある中学生が多く得意教科に英語を挙げていて、英語に抵抗感の無い島の教育の良さと、留学で貴重な体験をしていると感じました。高校からは島を出て本島に進学しますが、子ども達は楽しみにしている様子でした。また違った環境、仲間と関わることは刺激になるので今後も頑張ってもらいたいです。受験生の中には、沖縄高専を受験する中 3 生もいて「高専から名桜大学遠い? 名桜大学行ってみようかな」と話していて、大学に興味を持っている様子が見られました。「また会ったら声かけてね」と話しました。





トロピカルビーチ（沖縄県宜野湾市）

公益財団法人 **みらいファンド沖縄・琉球宇温基金**

〒901-2102 沖縄県浦添市前田 1-6-24 トミハウス 1 階

TEL 098-963-7969

<https://miraifund.org/kikin/takaharu/>



<https://www.facebook.com/Ryukyu.Takaharu.Foundation/>

